

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1. 付属機関等の会議の名称 松川町総合基本計画審議会（第1回）
2. 開催日時 令和元年8月7日（水） 19時00分から20時30分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 総合基本計画審議会委員
米山俊孝、坂本勇治、松井悦子、間瀬重男、寺澤美佐子、松下敏章、宮下徹
平澤晃、清水正育、米山由子、山崎明梨、平栗昌平、北條栄子、北林誠、大澤彰実
小沢誠、石田喜則、木下稔、宮下彰、水野一昭、清水祐一、小島慎司、北林南
事務局
久保副町長、小木曾課長、新井係長、池田主査
5. 議題（公開）
 - （1）次期松川町総合基本計画の基本的な考え方について
 - （2）これまでの取組み経過報告
 - （3）策定スケジュールと進め方について
 - （4）計画の方向性に関する意見交換
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）
—
7. 傍聴人の数
0人
8. 会議資料の名称
 - ・松川町総合基本計画審議会（第1回） 次第
 - ・松川町総合基本計画の基本的方向性・これまでの取組み経過（資料1）
 - ・第5次松川町総合計画【改訂版】に関する町民アンケート 集計結果（資料2-1）
 - ・町民アンケートの結果について（資料2-2）
 - ・第5次松川町総合計画【改訂版】策定スケジュール（資料3）

9. 会議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 正副会長の選出

会長：坂本勇治 副会長：寺澤美佐子

(5) 会長あいさつ

(6) 諮問

(7) 会議事項

①次期松川町総合基本計画の基本的な考え方について（資料 1）

質疑なし

②これまでの取組み経過報告（資料 1・資料 2-1・資料 2-2）

質疑応答

（委員）

第 5 次松川町総合計画【改定版】に関するアンケート集計結果（資料 2-1）の 17 ページの松川町の人口減少が進むことについて不安に感じている方に対して具体的な理由を問う選択肢の 13 項目は、どういう意図で作られたのか。

（事務局）

人口減少というものに対して、これまでまちづくり政策課に寄せられた声やまちづくり懇談会等で寄せられた声を参考にしながらいくつかの選択肢を選考した。

（委員）

選択肢の中には、国の制度やどうにもならないような内容も含まれている。不安だという声のアンケート結果に対して、活かすことを考えているのか。

（事務局）

アンケートは、傾向を掴むという意味で考えている。アンケート結果だけでは、見えない部分もあると思う。アンケート結果が町民の皆さんの意見すべてが反映されているとは思っていない。地域づくり会議等で意見をお聞きし反映させていきたい。

（委員）

総合計画策定のために 4 つの組織を作って検討すると認識している。各組織の中で女性委員がどのくらい入っているか。

（事務局）

地域づくり会議は、24 人中 11 人が女性であり、多種多様の方がいる。若手職員会議では、35 人中 18 人が女性である。策定委員会は役職の立場で選んでおり、男性の方がかなり多い。

③策定スケジュールと進め方について

(委員)

タイトなスケジュールであるため、次回の審議会にかける資料は、審議会開催前に送ってほしい。

(事務局)

事前にお送りしたいと思っている。遅くとも一週間前にはお送りしたいと思っている。

④計画の方向性に関する意見交換

(会長)

第5次松川町総合計画の冊子と同様のボリュームで作成することを考えているか。

(事務局)

全部が盛り込まれている網羅的な計画になっているが、町の中で力を入れて実施する基本に据えて行こうという大事な部分を計画に反映していきたい。スリム化をしていきたい。

(委員)

松川町の人口減少の問題を実施計画の中でどの程度取り組めるか。すべての課題の中で人口減少抑制の部分が一番大切だと思っている。人口減少に関する内容は、ある程度盛り込んでほしい。

(事務局)

持続可能な地域づくりのテーマの中で人口減少の問題は大きなテーマとなっている。参考にさせていただきたい。

(委員)

ただ、人口減少にこだわりすぎると人口減少問題取り組むだけで身動きがとれなくなる。自然減もあり、必然的に人口は減っていく。社会情勢の中で結婚しない子どもを産まない人も多い。人口減少を前提とした施策を取るべきだと思っている。人口が減っていく中で町民がどう暮らしていけるかを考えたい。

(委員)

現状に合った計画を立てることは、大切だと思う。一方で、松川町総合計画の中に夢と希望を持つ計画も立てないといけないと思う。若者がUターンしたい結婚したい出産したいと夢や希望を持てる環境を整えることが大切である。現実を見据えた計画も必要であるが、血が通った総合計画であってほしいと思っている。

(委員)

人口減少は、松川町のみならず課題であると思うが、年々課題として重要度は高いと思う。実際アンケートを見てみると75%以上が25年以上松川町に住んでいる。結婚して松川町に移り住んだが、松川町に移り住んで良かったと思っている。移住してきた人や長年松川町に住んでいる人の意見を掘り下げていく必要もある。具体的に若い人が出

て行って帰って来るまちづくりを進めていくことが必要である。

(会長)

長期的に見てみると 10 代の意見が必要であると思う。

(事務局)

今年 2 月に中学校の社会科の授業で人口減少の課題を勉強し、発表した経過があり、参考にさせていただきたいと思っている。また、高校生と関わる機会も増えてきたのでヒアリングしていきたい。反映の方法は今後考えていきたいが、反映させていきたい。

(委員)

アンケートの回答いただいた年齢は、60 代 70 代の方が多い。30～50 代の意見が少ない。もっと若い人の意見が必要だと感じている。

(事務局)

アンケートは、年齢を比例案分している。結果的に 60 代 70 代の方の回答が多かった。若い世代の声もしっかり聞いた方が良いと考えている。地域づくり会議等で若い方の意見も反映させていきたい。

(委員)

人口減少の時代において、ここに生まれ育った方が帰ってきてくれるだろうと希望を持つが、そういう時に松川町の産業が活性化していないと帰って来ても働く場所がない。松川町として何の産業に力を入れて行くのか明記していく必要がある。

(会長)

仕事があって働く場所があることが、若者が戻ってくる前提である。リニアの時代まで 8 年。東京や名古屋が通勤圏内となる。通信網も整備されているため、仕事を自分で作れる場所を作っていく必要もある。

(委員)

10 年 15 年後の町はどうあるべきかを定めた上で、計画期間の 4 年後の計画を立てていく必要がある。リニアという大変革な時代がくるため、変化に合った具体的な計画を盛り込んでほしい。

(副会長)

知り合いの中で、都会で結婚した夫婦二組が松川町に近々戻ってくる。自然豊かな松川町で生活し、子育てしたいと言っている。外に向けて発信することも必要だが、松川町に住んでいる町民が松川町は魅力的な町だと認識することが必要である。町の魅力に気付いていない方も多い。自分たちが町の良さを知ることも大切である。

(会長)

スケジュールがタイトなので、ご意見のある方は、直接事務局に連絡いただきたい。

(8) その他

(9) 閉会